

入力シート(まずこのシートの該当事項を入力してください。計画書及び報告書に該当事項が自動入力されます。)

★計画書及び報告書に押印は不要です。計画書には、担当者名、個人名(代表者の氏名を除く。)を記載せず、記入する場合には役職のみを記載してください。

該当する内容を入力してください。処理計画や実施状況報告書に反映されます。

廃棄物の種類を入力してください。7種類まで入力可(8種類以上の場合は、下記※参照)

単位はトンです。数字のみ入力してください。

住 所	香川県三豊市豊中町本山乙703番地
氏名又は名称	ちぬや冷食株式会社
法人にあっては、代表者の役職・氏名	代表取締役 今津秀
電話番号	0875-82-5561
事業場の名称	ちぬや冷食株式会社
事業場の所在地	三豊市豊中町本山乙703番地
事業の種類	製造業

令和5年度実績		産業廃棄物の種類						単位:t
		汚泥	動植物性残さ	廃プラスチック類	混合廃棄物	金属くず	廃酸	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず
① 排出量		1,851.32	4,375.20	161.55	18.93	0.34	0.13	0.13
② 自ら直接再生利用した量								
③ 自ら直接埋立処分又は海洋投入処分した量								
④ 自ら中間処理した量		1,646.31						
⑤ ④のうち熱回収を行った量								
⑥ 自ら中間処理した後の残さ量		968.42						
⑦ 自ら中間処理により減量した量		677.89						
⑧ 自ら中間処理した後再生利用した量								
⑨ 自ら中間処理した後自ら埋立処分又は海洋投入処分した量								
⑩ 直接及び自ら中間処理した後の処理委託量		1,173.43	4,375.20	161.55	18.93	0.34	0.13	0.13
⑩のうち優良認定処理業者への処理委託量		247.53	108.58	161.55	18.93	0.34	0.13	0.13
⑩のうち再生利用業者への処理委託量		1,097.57	4,333.12	161.55	8.57			
⑩のうち熱回収認定業者への処理委託量								
⑩のうち熱回収認定業者以外の処理委託量								
⑭ 熱回収を行う業者への処理委託								

※廃棄物の種類が8以上の場合は2度に分けて入力し、2度目の入力については、計画書又は報告書の2面目以降(計画書6面及び報告書3面を除く。)を提出してください。

様式第二号の八(第八条の四の五関係)

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

令和 6 年 6 月 29 日

香川県知事 殿

提出者

住 所 香川県三豊市豊中町本山乙703番地

氏 名 ちぬや冷食株式会社

代表取締役 今津秀

電話番号 0875-62-5561



廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	ちぬや冷食株式会社
事業場の所在地	三豊市豊中町本山乙703番地
計画期間	令和6年4月1日から令和7年3月31日まで

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

① 事業の種類	製造業
② 事業の規模	資本金 1億円 売上高 319億円
③ 従業員数	479人

	④産業廃棄物の 一連の処理の工 程	工場 ⇒ 中間処理業者 ⇒ 処分業者
--	----------------------------------	---------------------------

(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

工場長 → 製造部生産管理課 → 製造部工務課

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度(令和5年度)実績】							単位:t
	産業廃棄物の種類	汚泥	動植物性残さ	廃プラスチック類	混合廃棄物	金属くず	廃酸	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず
	排出量	1,851.32	4,375.20	161.55	18.93	0.34	0.13	0.13
	(これまでに実施した取組) 廃棄物の分別強化、より高位の再生利用への変更、食品循環資源の再生利用の推進、脱水汚泥含水率低下。※生産量増加により前年度目標数値より増加。							
②計画	【目標】							単位:t
	産業廃棄物の種類	汚泥	動植物性残さ	廃プラスチック類	混合廃棄物	金属くず	廃酸	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず
	排出量	1,940	4,400	170	15	0.5	0.2	0.2
	(今後実施する予定の取組) 前年度の取組を継続する。生産量の変動によるが、食品リサイクル法における発生源単位を順守し、取り組む。※生産量増加分を見越して数値設定。							

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)	
	①動植物性残渣 ②不燃物 ③紙類 ④廃プラ類	

	②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 資源ゴミの分別強化、廃プラスチック類を更に分別し一部油化リサイクル化推進。
--	-----	---

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

【前年度(令和5年度)実績】		単位:t						
産業廃棄物の種類	汚泥	動植物性残さ	廃プラスチック類	混合廃棄物	金属くず	廃酸	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	
①現状	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量							
(これまでに実施した取組)								
【目標】		単位:t						
産業廃棄物の種類	汚泥	動植物性残さ	廃プラスチック類	混合廃棄物	金属くず	廃酸	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	
②計画	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量							
(今後実施する予定の取組)								

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

【前年度(令和5年度)実績】		単位:t						
産業廃棄物の種類	汚泥	動植物性残さ	廃プラスチック類	混合廃棄物	金属くず	廃酸	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	
①現状	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量							
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	677.89						
	(これまでに実施した取組) 脱水機による脱水汚泥の含水率の低減。							
【目標】		単位:t						
産業廃棄物の種類	汚泥	動植物性残さ	廃プラスチック類	混合廃棄物	金属くず	廃酸	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	
②計画	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量							
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	710						

	④	(今後実施する予定の取組) 脱水汚泥の低い含水率の維持。
--	---	---------------------------------

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度(令和5年度)実績】							単位:t
	産業廃棄物の種類	汚泥	動植物性残さ	廃プラスチック類	混合廃棄物	金属くず	廃酸	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量							
	(これまでに実施した取組)							
②計画	【目標】							単位:t
	産業廃棄物の種類	汚泥	動植物性残さ	廃プラスチック類	混合廃棄物	金属くず	廃酸	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量							
	(今後実施する予定の取組)							

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度(令和5年度)実績】							単位:t
	産業廃棄物の種類	汚泥	動植物性残さ	廃プラスチック類	混合廃棄物	金属くず	廃酸	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず
	全処理委託量	1,173.43	4,375.20	161.55	18.93	0.34	0.13	0.13
優良認定処理業者への処理委託量	247.53	108.58	161.55	18.93	0.34	0.13	0.13	
再生利用業者への処理委託量	1,097.57	4,333.12	161.55	8.57				
認定熱回収業者への処理委託量								
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量								

		(これまでに実施した取組) 基準に従って業者を選定し書面による契約を締結し委託。
--	--	---

(第5面)

②計画	【目標】		単位:t					
	産業廃棄物の種類	汚泥	動植物性残さ	廃プラスチック類	混合廃棄物	金属くず	廃酸	ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず
	全処理委託量	1,230	4,400	170	15	0.5	0.2	0.2
	優良認定処理業者への処理委託量	260	100	170	15	0.5	0.2	0.2
	再生利用業者への処理委託量	1,130	4,350	170	8			
	認定熱回収業者への処理委託量							
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量							
	(今後実施する予定の取組) 委託業者の継続管理。							
※事務処理欄								

(第6面)

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

